

ごあいさつ

共生社会システム学会会長

福知山公立大学教授 矢口芳生

「持続可能性（永続可能性）」・「持続可能な社会」という用語は定着し、今では何気なく一般的に使われています。しかし、この用語の意味する内容は非常に奥深く、歴史のある大きな概念です。本学会は、この「持続可能な社会」の理念と実践を考えます。

本学会は、切り拓くべき統合的未来社会を「持続可能な社会」と位置づけ、その理論・課題・実現方法を研究しています。「持続可能な社会」実現のためのキー概念を「共生」とし、この「共生」概念も研究しています。

私たちが取り組んでいる課題をもう少し詳しく述べておきましょう。「持続可能な発展」理念、この理念に基づく「持続可能な社会」構築の道筋、実践過程・歴史的展開過程、「持続可能な社会」像、これらそのものの追究、そしてこれらに関する知見の整理という課題があります。また、「持続可能な社会」実現への課題、すなわち科学技術・経済・農林業のあり方、生活の質の向上、社会的経済的格差の是正、地域・地方の再生、ローカル・アジェンダの策定等の論点を明らかにし、一定の方向性を提示する課題もあります。さらに、「協働的持続可能な社会」といえる「共生社会」のあり方、この社会水準の可視化、共生社会システム学の方法を探る課題もあります。

これらの課題を明らかにしていく過程では、〈農〉の論理や農のあり方、「共生」概念や共生のあり方、協働的な人間関係・暮らし方、人と自然との関わり方、等が重要なヒントを提供していると、私たちは考えています。ですから、暮らしの現場で起きている様々な問題について、また NPO・NGO・住民・市民等の抱える問題・課題も研究の対象にしていますし、ともに取り組んでいます。

今日、問題がますます複雑化・深化し、解決方向も見えにくくなっています。こうしたなかで解決への道筋をつけたもののひとつに、新たな 17 の目標として取りまとめた SDGs（持続可能な開発目標）があります（⇒SDGs へ）。本学会は、この点についても理論的実践的に積極的に関わって行きます。

本学会は 2006 年に発足し、その設立趣旨（⇒設立趣意書へ）にたえず立ち返って研究を進めています。人文社会科学分野に関わる皆さんをはじめ、自然科学分野に関わる皆さん、学生・大学院生の皆さん、そして地域住民の皆さん、本学会で様々な課題の整理と解決に向けて理論的・実践的にともに取り組んで行きませんか。皆さんの学会への加入を呼びかけますし、ご支援をよろしく願います。

⇒設立趣意書へ

<http://www.kyosei-gakkai.jp/gaiyou/setsuritsusyuisyo.html>

⇒SDGs へ (リンク)

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals.html>

<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/>

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>